

<b>1 学校教育目標</b>
教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の定時制の高校として、多様な個性・価値観を認め合い、豊かな情操と道徳心を養うとともに郷土への熱い思いをもって活躍し、人吉・球磨地域の復興と発展を支える人材を育成します。そのため、多様な生徒の学習形態に対応した教育活動の実践や、進路実現に向けた勤労観・職業観など、身につけるべき資質・能力の確実な定着を図り、その能力を最大限に引き出すことができる教育を目指します。今後は、ICTを積極的に活用しながら学習活動を進めるとともに、地域理解と自己理解を目指す探究学習を通して、人吉・球磨地域を中心とした地域振興に積極的に取り組むために必要な力を育てる、特色ある学びを展開します。

<b>2 本年度の重点目標</b>
熊本県教育委員会から示された「令和4年度(2022年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。 (1) 授業改革・確かな学力の育成 (2) 生徒指導の充実・基本的生活習慣の確立 (3) キャリア教育の推進・進路指導の充実 (4) 学校行事の活性化 (5) 業務改善・生徒と向き合う時間の確保・働き方改革の推進

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	学校組織の円滑な運営と活性化	スクール・ミッションの内容と本校の課題が共有され、課題解決に向けた共通実践が行われている状態	①スクール・ミッションを繰り返し周知し、職員間の報告・連絡・相談を適切に行うことにより、情報を共有しながら業務を進める。 ②今年度より定期的に設定した部長会を中心として、本校の課題の共有を図り、課題解決に向けた学校全体での取組について検討する。	B	①職員会議等において、スクール・ミッションを繰り返し再確認し、全職員で内容と課題を共有しながら業務を進めることができた。 ②今年度から部長会を週に1回設定し、主任・主事の情報共有と各分掌の連携を図ることにより、教育活動の組織的な実施につなげた。共通実践をより一層充実させることが必要である。
	魅力ある学校づくり	魅力化と情報発信	本校の魅力について、広く認識された状態	①スクール・ポリシーを踏まえ、「1人1人を大切にし、可能性を広げる学びの場」である本校の特色を、ホームページ等を通じて発信する。 ②総合的な探究の時間を中心として地域と連携した教育活動をさらに充実させる。	A	①ホームページや地元新聞、各種通信等を通して、生徒の様子を発信することができた。定通大会やICTコンテストに参加し、授業や探究活動の成果を発表する機会となった。 ②生徒会行事や企業見学と融合した探究活動を展開した。視察研修においては、地元人吉・球磨の他、八代・芦北・水俣地域

						の皆様からも御支援をいただいた。
	業務改善 働き方改革	生徒と向き合う 時間を確保する ための工夫	校務の削減等 が進み、職員 の時間外勤務 時間が法令で 定められた上 限の範囲内と なった状態	① I C T 特定推 進校、学校情報 化優良校として 、業務の効率化 を推進する。 ②職員の時間外 勤務の状況等につ いて、毎月の 衛生委員会で検 討し、業務改善 や業務分担を進 める。	A	①職員会議や情報 連絡会の資料をデ ータ化し、各種ア ンケート等の I C T 活用により、業 務の効率化とペー パーレス化をさら に進めることがで きた。 ②職員の勤務状況 データを取りまと め、毎月の衛生委 員会で検討した。 業務改善への取組 とともに、定時退 勤に対する職員の 意識が高まり、時 間外勤務時間は昨 年度に続き減少し ている。
学力 向上	授業改革	授業の改善	生徒が意欲を 持って主体的 に授業に参加 している状態	①一人一台端末 等の I C T 機器 を活用し、生徒 が「学びの楽し さ」や「学びの 意義」を感じ「 達成感」を味わ う魅力ある授業 作り取り組む 。 ② I C T の活用 等、テーマを絞 った研究授業と 合評会の実施、 I C T 活用のモ デル授業を県全 体に発表し、授 業の改善に取り 組む。	A	①探究活動におい て、昨年度作成し た人吉市 U D 観光 マップをもとに観 光コース作成など で一人一台端末を 活用した。公開授 業週間の生徒アン ケートでは「これ までの学習を生か して、学習内容を より深く理解でき ましたか。」とい う設問に対して、 すべての生徒が前 向きな回答をして いた。 ②「 I C T を活用 した主体的・対話 的で深い学びを目 指して」というテ ーマで公開授業週 間を実施し、 I C T 活用力の向上に 励んだ。平時から も I C T 活用に積 極的に取り組んで いる。前期の I C T モデル授業の動 画配信では県内の 先生方に 6 0 回以 上視聴していただ いた。

	確かな学力の育成	個に応じた学習指導	生徒一人ひとりの学習面における課題や習熟状況を把握し、個に応じた学習指導がなされている状態	①長期休業期間に生徒の習熟度に応じた「オーダーメイド学習課題」を課し、生徒一人ひとりの基礎学力向上を図る。 ②生徒情報連絡会で、生徒一人ひとりの学習における特徴を共有し、教育活動の改善に繋げる。	A	①長期休業期間は「オーダーメイド学習課題」を課して生徒の基礎学力向上を図った。教科によっては一人一台端末を介した課題の添削指導等を行うなど、個に応じた指導を行った。 ②定期考査後の各教科担当者からの気づきは全体で共有した。生徒・保護者からも取組を評価していただいている。
		指導と評価の一体化	学習評価のあり方について工夫・改善がみられる状態	①観点別評価やポートフォリオ評価について研究を進める。 ②ICTを活用しシラバス帳をどこでも活用できるようにする。単元や内容のまとめりごとの評価方法を研究する。 ③個に応じた適切な評価の在り方を研究し実践する。	B	①今年度から年次進行で実施される新学習指導要領に向けて、一昨年度から観点別評価の体制を整備し、さらに今年度、教務規程に追加した。五木分校との合同研修では学習評価に関する教科ごとの協議を行い、観点別評価についての研究を進めた。 ②学年毎にシラバスを作成し、一人一台端末を利用して配付し、見通しを持った教育活動の展開に努めた。 ③教科によって定期考査後の答案返却時に生徒との面談を実施し、現状の観点別評価や評定の根拠について伝えるなど、これまでの学習の振り返りやこれからの学習の目標設定に活用している様子が見られた。今後も評価に関する研究を進めていく必要がある。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	基礎的・汎用的能力の育成	各学年において将来的な展望が持てるような、段階的指導の実施ができる状態	①年2回、進路面談を実施し、進路に対する思いを確認し、キャリア・パスポートを用いることで、明確な意識付けを行う。 ②インターシ	B	①進路面談を通して生徒の思いを把握し、個別に必要なプログラムを考え実施した。 ②コロナ禍や先方の事情で実施できない分野もあったが、可能な限り実

		探究活動の充実	他の機関と協力し、生徒目線で地域の魅力を提示し、課題を発信できる状態	<p>アップや進路講演会を実施し、自らの将来像を考える機会を設ける。</p> <p>①昨年度制作した「人吉市UD観光マップ」を用いた観光コースを発案することにより、地域の魅力と課題を提示する。</p> <p>②他の機関との連携を取りながら、課題となる分野の探究を深める。</p>	A	<p>施を試みた。進路講演会については、将来、就労するにあたって、今、やるべきことに主眼をおいて、進学希望者も就職希望者も、共通した内容で実施した。</p> <p>①防災ツーリズムやエコツーリズムの視点から3班を編成し、班ごとに創意工夫を凝らしたUD観光マップを活用した観光コースを制作した。</p> <p>②人吉温泉観光協会やJTBと連携し、講演会を通して、地域の課題について考える機会を設けた。</p>
	進路目標の達成	進路指導体制の構築	生徒の進路目標に応じた指導体制を構築し、結果として表れる状態	<p>①進路面談や進路検討会を実施し、生徒の進路目標について精査した情報を基に個に応じた指導にあたる。</p> <p>②生徒の進路目標に応じた個別指導体制である「人定アドバンスプロジェクト」を立ち上げ、教科指導や資格取得など、個々の進路目標に向けた力を身につける。</p>	B	<p>①進路面談に限らず、必要に応じて三者面談にもキャリア教育推進部が同席し、情報提供に努め、進路目標に対する意識づけを行った。</p> <p>②教科指導については「人定アドバンスプロジェクト」を立ち上げ、卒業予定者には、個別指導を行い、オープンキャンパスの事前事後指導から入試対策までを計画的に行った。</p>
生徒指導	個性の伸長	生徒理解の深化	生徒の特性や能力（可能性）などが把握され、尊重された状態	<p>①あらゆる機会を捉えて、生徒の特性や能力等を見いだすことに努め、生徒の能力を発揮する機会を設定する。</p> <p>②生徒情報の交換・共有の機会を年間を通じて設け、生徒の可能性を伸ばす手立てを講じる。</p>	A	<p>①コロナ禍であったが、工夫することで人定祭や生徒会行事など生徒が個性を発揮する場面を設定することができた。</p> <p>②週に1回、全職員での情報共有の場を設け、実施することができた。共有した情報を生徒指導に有効に活用することができた。</p>

	自己指導能力の育成	自己肯定感の高揚	生徒の自己肯定感が高まった状態	①生徒のよさを見だし、認め、褒め、励ます教育実践に努める。 ②一人ひとりの生徒に応じて適切な課題を設定し、スモールステップで課題を乗り越えさせ、数多くの成功体験を積ませる。	B	①多くの生徒は、自己肯定感が高まったと感じているが、若干名自己肯定感の高まりを感じていない生徒がいる。 ②授業や学校行事の中でICT機器等を活用することで生徒に個別の課題を設定することができた。
		自己決定力の育成	生徒が自己実現に向けて前進している状態	①様々な教育活動の場面で、生徒に選択させる機会を設ける。 ②生徒が主体的に生徒会活動を行うことができるように支援する。	B	①人定祭や生徒会行事等において、生徒たち自らが考え選択する機会を設けることができた。 ②全ての生徒が学校行事において主体的に取り組むことができた。GoogleClassroom等の活用によって、一人ひとりが主体的に取り組む活動を設けることができた。
人権教育の推進	人権を尊重する意識の高揚	教科指導・HR指導における取組の推進	自分が大事にされていることを生徒が実感し、周囲への信頼を通して人権を尊重しあえる学校作りを行っている状態	①生徒一人一人の人格的尊厳を損なわない指導を心がける。 ②授業を真理・真実に向かう場として、偏見にとらわれない教育実践をおこなう。	A	①同和問題を中心にすべての人格を尊重することの大切さを学び育てることができた。 ②全教科、全領域において、人権教育につながる指導を行うことができた。さまざまな人権教育の話題を、どうバランスよく扱っていくかが課題である。

	「命を大切に する心を育む」 指導	生命を尊重する 意識の高揚	命を大切にす る意識や行動 を育む状態	①それぞれの授 業やHRの中 で、命の尊さに 触れ、生命を尊 重する認識を育 む。 ②健康教育や防 災教育の取組み においても、命 を守る行動の大 切さについて具 体的に指導す る。	B	①ソーシャルスキ ル・トレーニング (SST)講座や ストレスマネジメ ント講話を行うこ とができた。課題 としては、通信や ホームページを活 用して、定期的な 情報を発信するこ とである。 ②健康教育や防災 教育において、保 健便りの発行や講 演会を通して命の 大切さを認識させ るとともに、災害 時の避難方法や救 急救命法について の訓練を実施し、 命を守る行動につ いて指導した。
いじめ の防止 等	いじめの 早期発見	いじめの認知と 対処	いじめを早 期、適切に認 知し、対処し た状態	①日常的な生徒 観察、定期的な 生徒情報の交換 により、いじめ の早期発見につ なげる。 ②いじめ事案が 発覚した場 合は、基本方針に 沿って迅速に対 応する。	A	①生徒への声かけ とその反応及び観 察などによって、 生徒の状況を把握 し、生徒に関する 情報を交換するこ とができた。また、 定期的な各部によ る面談で様々な視 点から生徒の状況 を把握し情報の共 有を図ることがで きた。 ②「心のアンケート」 実施後のSC を交えた「いじめ 問題対策委員会」 では、いじめと認 定する事案はなか った。また、その 結果を全職員で共 有した。
	いじめの 未然防止	望ましい人間関 係づくり	いじめは重大 な人権侵害で あり許され ないという認 識を生徒が持 ち、互いを思 いやれる雰囲気 を醸成した 状態	①生徒会による 「いじめゼロ宣 言」など、生 徒が人権の主体 になれるような 自治活動を支援 する。 ②SNSの使い 方など情報モラ ル啓発資料を配 付し、思いやり や互いを尊重す る心を育む学習 を行う。	B	①生徒会で「いじ めゼロ宣言」の内 容を決定し、全校 生徒に向けての宣 言や宣言文の教室 掲示を行い、啓発 活動ができた。 ②SSTの講座を 行い、学年を超え た交流ができた。 また、情報モラル に関する学習指導 (授業)や生徒指 導(合同SHR、 終礼)を行った。 情報発信のマナー に関する知識や技

						術を早期に定着させることや、スマホの使用時間についての指導が課題である。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	社会に開かれた学校づくり	総合型コミュニティスクールの推進	総合型CSとしてスクール・ミッション等が地域と共有された状態	①総合的な探究の時間における探究活動において、引き続き地域と連携体制を整備する。 ②学校運営協議会を通じて、学校に対するニーズや課題等を把握し、課題解決に取り組む。 ③各種教育活動の実施の案内配付や各種学校便りの発行及びホームページ掲載を通して情報発信を行う。	A	①生徒会行事や企業見学を含む探究活動を通して、地域と連携し、多くの協力を得ることができた。 ②スクール・ミッションを共有し、ニーズや課題等を把握することができた。今後もさらに教育活動に生かすことが必要である。 ③人定祭やオープンスクール、公開授業等の学校行事について案内配付を行った。また月1回の各種学校便りの発行やHP掲載、くま川鉄道各駅へのポスター掲示、地元新聞等を通じて、生徒の活動について情報発信を行った。本校の教育活動への理解が更に深まることを目指して、より一層の充実を図る予定である。
		保護者との連携	保護者が学校の教育活動について理解し協力している状態	①年間スケジュールを見通して、保護者への行事参加の呼びかけを早めに行う。 ②安心・安全メールや各種通信等を活用し、保護者への情報提供を密に行う。	B	①今年度は、秀麗会総会を学校で開催することができた。昨年度、無観客開催だった人定祭について、今年度は保護者限定で開催することができた。多くの保護者に御来場いただいた。 ②保護者への連絡は安心・安全メールやGoogleClassroomを活用した。コロナ禍で、学校行事等に参加していただく機会が減っている状態である。

#### 4 学校関係者評価

##### (1) 学校経営

- ・学校の魅力発信の方法としては、市と連携して広報活動を行い、地域のイベント等に生徒が参加することにより、人吉高校をさらに広くアピールする機会にできる。
- ・今年は創立100周年記念の年でもあり、盛り上げてほしい。

##### (2) 学力向上について

- ・小項目「授業改革」は、生徒アンケートで全ての生徒が前向きな回答をしていたということと、ICT活用モデル授業の動画が60回以上視聴されたという実績から、目標を十分に達成できていると思う。

##### (3) キャリア教育（進路指導）について

- ・定時制の生徒の進路目標について、進路希望の状況や変容等があれば教えてほしい。
- ・令和2年7月豪雨以降、地元企業は人手不足の状態である。就職希望者にはぜひ地元の民間企業も紹介してほしい。

##### (4) 生徒指導について

- ・評価の観点「自己肯定感の高揚」について、課題として「若干名自己肯定感の高まりを感じていない生徒がいる」とあるが、生徒の自己肯定感を高めることはなかなか難しいことだと思う。具体的にどのような取組をされているか、教えてほしい。

##### (5) 人権教育の推進について

- ・充実した指導が行われており、学校の学びをフィードバックする機会があればいいのではないか。

##### (6) 地域連携について

- ・コロナ禍の約3年間、保護者が学校行事等で顔を合わせる機会が減少してしまった。これと関連して、学校評価アンケートで保護者の回答率が低いことが気になる。
- ・UD観光マップ等の地域と連携した探究活動を行っており、定時制は地域活動をととてもよく頑張っている。

#### 5 総合評価

学校教育目標については、本校の教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の定時制高校として、人吉・球磨地域の復興と発展を支える人材の育成を全職員で目指すことができた。

本年度の重点目標については、熊本県教育委員会から示された「令和4年度（2022年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努めた。

(1) 授業改革・確かな学力の育成 (2) 生徒指導の徹底・基本的生活習慣の確立 (3) キャリア教育の推進・進路指導の充実 (4) 学校行事の活性化 (5) 業務改善・生徒と向き合う時間の確保・働き方改革の推進

学校運営協議会委員の方々からは、本校の「一人一人を大切にし、可能性を広げる」教育活動について高い評価と激励の言葉をいただくことができた。スクール・ミッションに示されているとおり、人吉・球磨地域の定時制高校として、存在意義をしっかりと認識し、地域からの期待に応える教育活動や生徒達の活躍を発信しながら、さらに魅力ある学校づくりを目指す。

##### (1) 学校経営について（「働き方改革」への取組も含む）

「学校経営方針」に関しては、今年度から部長会を定期的に設定し、主任・主事の情報共有と各分掌の連携を図ることにより、教育活動の組織的な実施につなげた。「魅力ある学校づくり」は、今年度もホームページや地元新聞、各種通信等を通して、生徒の様子を発信することができた。総合的な探究の時間「人定MyRevoプロジェクト」は、生徒会行事や企業見学と融合させた視察研修を展開し、地域からも御支援をいただいた。「業務改善・働き方改革」は、ICTも活用しながら業務の効率化を進めた。定時退勤に対する職員の意識も高まり、時間外勤務時間は昨年度に続き、減少した。

##### (2) 学力向上について

「授業改革」については、職員全員が日々の授業において一人一台端末等のICT機器を積極的に活用している。また、11月の公開授業週間は「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを目指して」というテーマで実施した。最近では、定期考査において自動採点システムの導入を始めた職員もおり、活用力の向上に励んでいる。「確かな学力の育成」については、生徒一人一人の学習における特徴や学習状況を把握し、個に応じた学習指導の改善に努めている。学校評価アンケートにおいて、生徒だけでなく保護者からも取組については高い評価をいただいた。「指導と評価の一体化」については、観点別評価の体制を早めに整え、取り組んできた。それぞれの教科担当者が1名のみのため、今年度も五木分校との合同職員研修を実施し、教科毎の協議を行い、研究を進める機会とした。評価に関する研究は、今後も継続する必要がある。

(3) キャリア教育（進路指導）について

「探究活動の充実」は、学校評価アンケートで生徒からの評価が高かった。「人吉UD観光マップ作成」に関する活動を、今年度さらに発展させ、観光コース設定に取り組んだ結果と捉えることができる。また「進路目標の達成」に向けては、多様な進路に対応する進路指導体制の整備として、今年度新たに「人定アドバンスプロジェクト」を開始し個別指導を充実させた。

(4) 生徒指導について

「個性の伸長」について定時制では生徒理解に力を入れ、週に一回の生徒情報連絡会で、全職員で生徒の状況を把握し共有しながら、適切な指導にあたるよう努めている。また、学校行事ではコロナによる制限がある中でも、工夫をすることで生徒が個性を発揮し、生徒自らが考える機会を設けることができた。「自己肯定感の高まり」については、課題のある生徒もいるが、「自己指導能力の育成」に関しても、必要に応じて一人一台端末を活用し、一人一人が主体的に取り組む場面を設けることができた。

(5) 人権教育の推進について

全教科、全領域において、人権教育につながる指導を行うことができた。人権教育講演会はリモートで実施した。「命を大切にすることを育む指導」においては、ソーシャルスキル・トレーニングやストレスマネジメント講座等、生徒の実際の行動につながる指導を行うことができた。

(6) いじめの防止等について

「早期発見」については、心のアンケートのほか、毎週実施している生徒情報連絡会、さらに定期的な面談の実施等で、生徒の状況を把握し、全職員で共有している。いじめ問題対策委員会においても、今年度いじめと認定する事案はなかった。「未然防止」については、生徒による「いじめゼロ宣言」など啓発活動を行い、生徒がお互いを思いやる雰囲気作りにつなげている。

(7) 地域連携（コミュニティ・スクール）について

生徒会活動や探究活動において、地域と連携できた。保護者との連携については、今年度は秀麗会総会を学校で行うことができた。昨年度は無観客開催となった人定祭も、今年度は保護者限定で公開することができ、多くの保護者に来場いただいた。コロナ禍で学校行事等に参加していただく機会が減っている現状ではあるが、本校の教育活動への理解と協力をいただいていることが、学校評価アンケートからも読み取れる。今後も地域や保護者と連携して、教育活動のより一層の充実を目指したい。

(8) その他

学校評価アンケートは、生徒、保護者、教職員を対象として、12月に実施した。それぞれの評価項目ごとに、生徒、保護者、職員の意識の違いを見ることで、今後の教育活動の改善に資するアンケートになったものと考えられる。

## 6 次年度への課題・改善方策

【課題】個に応じた指導と評価の一体化

【改善方策】見通しを持った教科指導の展開に努め、学習評価の在り方や方法について今後も研究を進める。

【課題】進路目標の達成に向けた進路指導体制の構築

【改善方策】多様な生徒の進路実現に向けて、進路研究を計画的に行い、「人定アドバンスプロジェクト」をさらに充実させることにより、個に応じた進路保障につなげる。

【課題】保護者参加の学校行事の減少と、保護者対象学校評価アンケートにおける回答率の低下

【改善方策】今後は、新型コロナウイルス感染症の状況に合わせて、保護者等と連携する機会を増やすことにより、教育活動のより一層の充実を目指す。また、学校評価アンケートについては、保護者への周知や実施方法等について検討し、改善を目指す。